

平成 21年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)   
  特定共同研究(B)   
  特定共同研究(C)   
  一般共同研究  
 地震・火山噴火予知研究   
  施設・実験装置・観測機器等の利用  
 データ・資料等の利用   
  研究集会

2. 課題番号または共同利用コード      20\_09\_ - \_A\_ - \_02\_

3. プロジェクト名、研究課題、集會名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: 地球深部の構造とダイナミクス

英文: Study of structure and dynamics of the Earth's deep interior

4. 研究代表者所属・氏名      (独) 海洋研究開発機構・深尾良夫  
 (地震研究所担当教員名)      歌田久司

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
大和田 毅	気象庁・主任研究官	参加	平成21年7月15日-17日	3	有
増子 徳道	気象庁・研究官	参加	平成21年7月15日-17日	3	有
大和田 毅	気象庁・主任研究官	参加	平成22年1月13日-15日	3	有
清水 淳平	気象庁・研究官	参加	平成22年1月13日-15日	3	有

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード: グローバル観測, 海底長期観測, スタグナントスラブ, トモグラフィ

(1) 陸上観測点の観測機器の保守作業

海半球観測ネットワークによる, 安定した継続したデータ取得を目標に, 各観測点の保守作業を実施した。全般に良好な観測データが得られている。

(2) 海底機動観測

フレンチポリネシアや北西太平洋などにおいて, 機動的観測を実施した。

(3) データ解析・解釈

特定領域研究「スタグナントスラブ」で実施した海底機動観測 (海底広帯域地震及び海底電磁気観測それぞれのべ40カ所における1年間にわたる長期観測を3年間繰り返す) によって得られたデータの解析を進めた。結果を論文にまとめて投稿した。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト\*<sup>1</sup>または2000～3000字の報告書）

(\*<sup>1</sup>論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

Baba, K., H. Utada, H. Shimizu, T. Goto, T. Kasaya, N. Tada, Electrical conductivity imaging of the Philippine Sea upper mantle using seafloor magnetotelluric data, submitted to Phys. Earth Planet. Int., 2010. (3)

Isse, T., H. Shiobara, J.-P. Montagner, H. Sugioka, A. Ito, A. Shito, T. Kanazawa, K. Yoshizawa, Anisotropic structures of the upper mantle beneath the northern Philippine Sea region from Rayleigh and Love wave tomography, submitted to Phys. Earth Planet. Int., 2010. (3)